



## 英国労働党の新党首選出

26日(土)に開票が行われた労働党党首選の最終結果は以下のとおり。最終ラウンドはミリバンド兄弟の決戦となり、50.65%を獲得したエド・ミリバンドが兄のデービッド・ミリバンドを僅差で破り、ブラウンの後継党首の座に就いた。3分の1ずつウェイトを付与される選挙人グループ別に見ると、議員グループ・党員グループはデービッドが押さえており、エドは強力な労組の後押しで勝利した。「ブレアの後継者」と目され、ニューレーバー路線の継承者と見なされていた最有力候補デービッドの敗退により、党内左派の勢力が強まったと見られている。

表: 党首選の投票結果

合計	Diane Abbott	Andy Burnham	Ed Balls	David Miliband	Ed Miliband
第1ラウンド	7.42%	8.68%	11.79%	37.78%	34.33%
第2ラウンド	-	10.41%	13.30%	38.89%	37.47%
第3ラウンド	-	-	16.02%	42.72%	41.26%
第4ラウンド	-	-	-	49.35%	50.65%
1. 下院議員・欧州議会議員 (MPs & MEPs)					
第1ラウンド	0.88%	3.01%	5.01%	13.91%	10.53%
第2ラウンド	-	3.03%	5.17%	14.02%	11.11%
第3ラウンド	-	-	5.43%	15.78%	12.12%
第4ラウンド	-	-	-	17.81%	15.52%
2. 党員 (Party members)					
第1ラウンド	2.45%	2.49%	3.37%	14.69%	9.98%
第2ラウンド	-	3.30%	4.22%	15.08%	11.13%
第3ラウンド	-	-	4.82%	16.08%	12.42%
第4ラウンド	-	-	-	18.14%	15.20%
3. 労組・協賛機関 (Union & societies)					
第1ラウンド	4.09%	2.83%	3.41%	9.18%	13.82%
第2ラウンド	-	4.08%	3.83%	9.80%	15.23%
第3ラウンド	-	-	5.76%	10.86%	16.70%
第4ラウンド	-	-	-	13.40%	19.93%

出所: KRA作成

最有力候補と目されていたデービッドの敗退で党内にはショックが走ったが、ニューレーバー時代のブレア対ブラウンの確執に辟易し「結束 (Unite)」が合い言葉になっていた党首選の結果、党内分裂の動きはなく取り敢えず40歳の若い党首のお手並み拝見(もしくは「この党首に頑張ってもらえないか」といった感じ)である。

一方メディアの反応は、一部左派系メディアを除いて辛口評が多い。28日(火)の就任演説については、「一応の水準には達していたが労働党の非支持者を含めた一般大衆を取り込むような (inspiring) 力量はまだない」「労働党のコア支持者 (労働者) から無党派の多い中流層

本稿の内容については可能な限り正確を期していますが、万が一誤謬があった場合、Komatsu Research & Advisory (以下KRA)は一切の責任を負いません。本稿の内容は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、KRAの統一した見解を示すものではありません。情報や見解は、予告なしに変更することがあります。本稿からリンクを張っている第三者のサイトのコンテンツに関しては、KRAはいかなる責任も負いません。本稿の内容を利用したことや生じるいかなる不都合や損害についてもKRAは一切の責任を負いませんのでご了承下さい。

(いわゆる”ミドル・イングランド”)まで幅広い層に訴える一通りの政策項目を万遍なく網羅したが、内容が空疎で薄っぺら「ニューレーバー時代からの訣別(The era of New Labour has passed.)を宣言したが、それに代わる明確なビジョンを打ち出していない。“新しい世代”(New Generation)と謳う労働党のアイデンティティーは不明」などといったコメントが散見された。

兄と比較すると「左寄り」で、保守系メディアからは「赤のエド(Red Ed)」と命名されている。(時限措置で導入された)所得税最高税率50%および金融機関賞与税の恒久化、生活賃金(living wage; 現在の最低賃金よりも高い)の導入などの政策に対し、当然ながら労組は歓迎、経営者団体からは反撥を買っている。目下最大の懸案の財政再建については、与党連立政権の歳出削減案に対し全て反対ではなく是々非々で臨むとする一方、前労働党政権下でダーリング財相が打ち出した「2011年度からの4年間で財政赤字半減」のプランはあくまで出発点であるとし、歳出削減規模の一步後退を示唆した。また財政赤字削減は増税1/3・歳出削減2/3の比率で行うという従来の目安よりも増税の割合を大きくし、「大きな政府」寄りの姿勢を明らかにした(因みに連立政権の同比率は増税1/5・歳出削減4/5)。

これから本格的に始まる歳出削減に対抗し、大規模ゼネストも辞さずと脅す労組に対しては「ストライキは飽くまでも最終手段。無責任なストライキは支持できない」と牽制。しかしながら大手労組(Unite)幹部は労組にとって暗黒時代だったニューレーバー時代の終焉を歓迎し、「政策的妥協をして中道右派を取り込み政権に就くよりも、労働者の党という本来のアイデンティティーを守り万年野党でいる方がまし」との発言が伝えられている。ミリバンド党首の就任発言を聞く限りは明らかな左旋回ではなく、自民党との連立で中道右派路線を確立しようとしているキャメロンの保守党に対し、(従来のニューレーバーよりは左寄りで)広い有権者層を取り込む中道左派路線を打ち出して行こうとしているように見受けられるが、労組の支持・資金で党首の座に就いたミリバンド党首が労組からの強力な圧力を排して独自路線をとれるかはまだ未知数である。

確実視されていた有力候補の兄に対抗して立候補し、兄を「党内多数派の支持を取り付けた有力候補＝ニューレーバー時代を引きずる古い世代」と位置づけ自らを「変化を体現する新世代の候補者」と差別化。有力労組および党内反ブレア派の支持を取り付け「第2選択狙い」で兄を破った冷徹さ(ruthlessness)に対しては、反対派も一定の評価を与えている。また29日には現職院内幹事の再選希望を一蹴し自らの押す候補者をその後釜に据えるなど、強力なリーダーシップの片鱗を示している。

今後10月7日に影の内閣人事が発表される予定。10月20日の政府包括的歳出見直し(CSR: 来年度から4カ年の歳出計画)発表までに野党労働党の財政再建代替案をまとめる必要がある。歳出削減に反対し大規模ストをちらつかせる労組に対し、どのような態度を取るのかも注目される。下院での党首対決も含め、就任早々新党首の力量が試される場面が目白押しである。

井上 貴子(問合せ: tinoue@komatsuresearch.com)